

土粘土のような紙粘土、彫塑ねんどを使ってお面をつくらう

ゆかいなお面をつくらう

作品づくりのオススメポイント

- 彫塑ねんどは自然乾燥させるだけで、焼き物のような風合いに仕上がります。
- 発泡スチロール製のお面を芯材として使用しているので加工がしやすいです。
- 乾燥後、少し水をつけ、軍手などで磨くと金属のような光沢になります。
- 乾燥後、彫刻刀や紙やすりで簡単に加工でき、絵の具で発色よく着色できます。

用意するもの



- 彫塑ねんど
- 粘土板
- ヘラ
- カッターナイフ
- アルミ針金
- ゆかいなお面
- 絵の具
- 軍手
- 彫刻刀



1 カッターナイフなどでお面を切り加工します。

POINT お面は加工せず、そのまま使用してもかまいません。



2 アルミ針金を刺し、つなのなどをつくりします。

POINT 穴の部分に粘土を盛り付ける場合はガムテープで穴をふさぎます。



3 粘土を薄く伸ばし、お面全体に貼付けていきます。

POINT 袋に小指の先ほど補修用に粘土を取っておきましょう。



4 目・鼻・口などに粘土を盛りつけていきます。

POINT 部品が外れないように、しっかり指先で粘土をならします。



5 ヘラなどで細かい部分を仕上げ乾燥させます。

POINT 乾燥後、補修する場合は補修箇所に水をつけ粘土を刷り込みます。



乾燥後 水彩絵の具などで発色良く着色する事ができます。

POINT 粘土の色をいかに配色を心がけましょう。



乾燥後 水をつけ、軍手などで磨くと金属のような光沢に仕上がります。

POINT 磨く時に壊れないようにしっかりとした作品をつくりましょう。



乾燥後 彫刻刀で削り加工する事ができます。

POINT 失敗した場合、残しておいた補修用の粘土で埋めましょう。

